



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_south/490/



エリア

高雄市

テーマ

歴史

建築

芸術

衛武營国家文化 芸術センター

日本統治時代の軍用地から 今日の国立ホールへ

2018年10月に正式オープンした「衛武營国家文化芸術センター」は、敷地面積9.9ヘクタールもある、台湾南部では初の国立ホールです。その横にあるのは、47ヘクタールの広さを誇る「衛武營都会公園」です。「衛武營」という地名が示すように、この地は防衛、軍事と深くかかわっています。日本統治時代から陸軍の軍用地として使われ、戦後も軍用地として使われていました。2003年の軍事基地移転とともに、この地を公園として整備し、さらに公園に衛武營国家文化芸術センターを建築することが決まりました。15年の歳月をかけて誕生したのは、台湾最大規模の文化施設というだけではなく、アジア最大級のパイプオルガン、そして世界最大の単一屋根をもつ高雄市の新たなランドマークです。

学 び の ポ イ ン ト

1.

建築として珍しいデザインとは？

衛武營国家文化芸術センターは、歌劇院、戯劇院、音楽庁、表演庁の4つの室内ホールと2万人以上収容可能な野外劇場で構成されています。4つのホールが1つの屋根で繋がっている点が大変珍しい建築デザインです。この建物を設計したオランダ人建築家のフランシーヌ・ハウベン(Francine Houben)は、台湾の人々がカジュマルの木の下でよく涼をとることに着想を得て、芸術も生活に溶け込むような存在であってほしいという思いで、カジュマルをモチーフにしました。また、台湾都市で造船業が盛んな高雄市らしい要素もデザインに取り入れました。エイや波のような流動的な外観に、造船技術を生かし2300枚の鉄板を貼り合わせた貨物船のような建物の壁面が特徴的です。

2.

衛武營国家文化芸術センターの誕生秘話とは!?

「衛武營国家文化芸術センター」の誕生について市民活動「南方緑色革命」に言及しなければなりません。戦後、中華民国政府が接収したこの場所(面積約66ヘクタール)は、新兵訓練所として使われていました。1979年、基地の移転を決めた際に、土地利用について住宅、商業施設か大学にするかなどの議論が白熱しました。80-90年代の高雄市は、台湾一の重工業都市として知られ、環境汚染、大気汚染など産業による公害問題が相次いで発生しました。そこで、都市の肺とも言える空間を求める人々が立ち上がり、「衛武營都会公園促進会」を組織し「南方緑色革命」を起こしました。地道な市民活動を続けた結果、2003年1月に公園化が決定し、同年に新十大建設の1つとして公園の中に台湾南部初の国立ホールを設置することが発表されました。